



平成 18 年 9 月 27 日

各 位

東京都豊島区南大塚二丁目 37 番 5 号  
株 式 会 社 フ ル ヤ 金 属  
代 表 取 締 役 社 長 古 屋 堯 民  
(JASDAQ・コード 7826)

問い合わせ先 取締役総務部長 吉田 隆夫  
電話番号 03-5977-3388 (代)

平成 18 年 6 月期の業績見込及び平成 19 年 6 月期の業績予想について

本資料は平成 18 年 8 月 25 日に公表した内容と同様のものであります。

平成 18 年 6 月期（平成 17 年 7 月 1 日から平成 18 年 6 月 30 日まで）における当社の業績見込及び平成 19 年 6 月期（平成 18 年 7 月 1 日から平成 19 年 6 月 30 日まで）における当社の業績予想について、下記のとおりお知らせいたします。

【通期】

(単位：百万円)

項目	決算期	平成 19 年 6 月期 (予想)			平成 18 年 6 月期 (実績見込)			(参考) 平成 17 年 6 月期 (実績)	
		金額	構成比	前年比	金額	構成比	前年比	金額	構成比
売 上 高		19,018	100.0%	99.4%	19,131	100.0%	159.9%	11,960	100.0%
経 常 利 益		1,037	5.4%	127.8%	811	4.2%	142.2%	570	4.7%
当 期 純 利 益		586	3.0%	132.8%	441	2.3%	153.6%	287	2.4%
1 株当たり当期純利益		402 円 86 銭			358 円 00 銭			266 円 91 銭	
1 株 当 た り 配 当 金		20 円 00 銭			15 円 00 銭			15 円 00 銭	

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりません。

2. 1 株当たり当期純利益について、平成 17 年 6 月期及び平成 18 年 6 月期は期中平均発行済株式数から期中平均自己株式数を控除した株式数により算出し、平成 19 年 6 月期は公募予定株式数 (220,000 株) を含めた期末予定発行済株式数 1,454,575 株により算出しております。

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行なうに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出し届出申論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行なうようお願ひいたします。

## 【平成 18 年 6 月期業績見込の内容】

平成 18 年 6 月期については、当社売上高は大幅な増収、売上総利益は増益を見込んでおります。

白金、ロジウム、イリジウム加工品を中心とした電子部門製品においては、携帯電話を中心とした部品産業の回復基調に伴い、大幅な売上高増加の見込みであり、ターゲット製品を中心とした薄膜部門においても、金、ロジウム、ルテニウムターゲットの増産により、売上高増加の見込みであります。センサー部門及びその他部門の売上高については微増の見込みでありますが、利益率の向上により、売上総利益は大幅な増益を見込んでおります。これらにより、平成 18 年 6 月期は、売上高 19,181 百万円（前期比 59.9% 増）、経常利益 811 百万円（前期比 42.2% 増）、当期純利益 441 百万円（前期比 53.6% 増）を見込んでおります。

## 【平成 19 年 6 月期業績予想の前提条件】

### (全般的な見通し)

携帯電話を中心とした電子部品産業が回復基調となったことを受け、また、液晶ガラス製造用設備の投資が活発化しており、貴金属製品の需要は全般的に旺盛なものとなっております。一方、世界的な貴金属相場の上昇は上限を示し、若干の下落傾向にありますことから、当社売上高については、ほぼ横這いの前年比 99.4% を見込んでおります。

電子部門の主たる製品であるイリジウム製品については、携帯電話用途のノイズキャンセラーの旺盛な需要が継続しており、L T（リチウムタンタレート単結晶）用ルツボの需要が拡大しております。また、液晶ガラス製造用及び光学ガラス製造用貴金属製品の需要についても国内・海外ともに拡大傾向を継続しております。

薄膜部門の主たる製品であるターゲット製品については、携帯電話の振動子製造用金ターゲットの好調継続と共にハードディスク用途の P G M ターゲットの増産が継続しております。

センサー部門の主たる製品である半導体製造装置用温度センサーについては、当社生産能力を増強したことにより、東南アジアを中心とした旺盛な海外需要に応じることが可能となっております。

その他部門では、貴金属化合物を中心としたケミカル製品について大幅な進捗が見られ、前期において実施した設備投資が、本格的に生産に寄与しております。

当社は、このような市場背景及び設備投資により、研究開発体制の増強と共に、製品のシェア及び利益の拡大を目指して参ります。

### ①売上高

平成 18 年前半の貴金属相場は高値を継続して参りましたが、全般的に価格は安定しており、若干の下落傾向も観測されます。白金、ロジウム、イリジウム加工品を中心とした電子部門製品においては、携帯電話を中心とした部品産業の回復基調に伴い、加工品受注は旺盛であります。ターゲット製品を中心とした薄膜部門においても、旺盛な受注は継続しておりますが、売上高はほぼ横這いに推移する見込みであります。これらにより、売上高は 19,018 百万円（前期比 0.6% 減）を見込んでおります。尚、センサー部門及びその他部門の売上高についても横這いの見込みでありますが、これら売上高の横這い現象は、貴金属価格の下落を見込むことによるものであります。

### ②売上原価

（労務費） 当社業容の拡大に伴い、製造要員及び製造技術要員の大幅な増員を勘案し、619 百万円（前期比 40.0% 増）といたしました。

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行なうに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出し届出申論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行なうようお願ひいたします。

(経 費) 減価償却費については、新規設備導入の予定等を勘案し、364 百万円(前期比 89.6%増)を見込んでおります。

その他の経費については、前期実績をベースに変動要素を加味して、設定しております。

③販売費及び一般管理費

(人件費) 人件費については、営業部門及び管理部門の強化等を目的とした人員体制の拡充を図るため、564 百万円(前期比 23.2%増)といたしました。

(その他) その他については、前期実績をベースに、人員計画、経費削減目標等に基づく変動要素を加味して、設定しております。

④営業外収益・費用

(営業外収益) 研究開発助成金収入として 43 百万円等を見込んでおります。

(営業外費用) 支払利息 90 百万円等を見込んでおります。

以 上

ご注意：この文章は一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。投資を行なうに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出し届出目論見書（並びに訂正事項分）」をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行なうようお願ひいたします。